

教育委員会との

懇話会

「人間関係プログラム」を体験!

【第1回】 H18.7.7(金)ときわ会館

学校教育部指導二課で取り組まれている「人間関係プログラム」の体験講座。村瀬修一主任指導主事、星野貞邦主任指導主事、小林広利主任指導主事より指導を受けました。この体験講座は小学校三年生から六年生と中学校一年生を対象に各学期始めに行い、年間十八時間実施されているものです。

まず全員が輪になり「探偵ごっこ」「聖徳太子ゲーム」などワークショップ形式で行い、じゃんけんをしたり、三人・五人などのグループを作ったり、話しやすい聞き方・話しにくい聞き方などの実践をして、話したくない相手と自然に楽しく関わることが出来るようになる内容でした。

実施した結果、効果も現れているようです。この後、各区P連でも体験講座が実施されました。

笑顔と英語でコミュニケーション!

【第2回】 H19.2.5(月)ときわ会館

潤いの時間
「英会話」を実践

今回は学校教育部指導一課の取り組みとして

- ・「学びの向上さいたまプラン」
- ・学校評価システム
- ・体向上サポートプラン
- ・研究指定・研究委嘱

について其々担当指導主事より説明していただき質疑応答がなされました。その後、小中一貫潤いの時間「英会話」



潤いの時間「英会話」について詳しく説明をする学校教育部 利根川副参事

子ども達は何を感じ
どう受けとめたんだろう!?

子ども達のよりよい環境を考えて

十月二十日(金)浦和ワシントンホテルにて交流会が開催されました。

市教委二十三名、学校長代表二名、各校PTA会長百二十八名の参加で藤岡文隆教育長よりご挨拶を頂き、田口和雄副教育長の乾杯の音頭により和やかな懇談が繰り広げられました。

会場では、教育委員会の方とPTA会長が同じテーブルを囲み、子ども達のよりよい環境作りのために話し合ったり、考えたりと、良い意見交換の場となりました。



英語でゲームをしてみました。思うように伝わりましたか?

について利根川副参事より説明がありました。続いて、竹居主任指導主事が指導教官になり、英語によるコミュニケーション力を育成するために実際に小学校で取り組んでいるワークショップ形式で、ゲームを実践例として行ないました。英語で質問されるので皆緊張して会話を楽しみました。

汗も涙も流しました

サークル活動

11月24日(金)浦和駒場体育館において、さいたま市PTA協議会卓球大会が開催されました。参加校12校15チームで団体戦が行なわれ、予選リーグで勝ち残ったチームで決勝戦が行なわれました。

優勝 大東小学校チーム
2位 常盤小学校チーム
3位 三室中学校チーム

各校チームの健闘を称えます。次年度もたくさん参加をお待ちしています。



● 日頃の練習の成果は...

10月28日(土)9時15分から岩槻文化公園体育館で、50チームの参加により、さいたま市PTA協議会ビーチボール大会がにぎやかに開催されました。一般チームと役員チームに別れ、白熱した試合はどちらが勝ってもおかしくない見ごたえのあるものでした。各コートごとに優勝チームに賞状が授与されました。



● 白熱した試合が続きました

美しい歌声に
心がひとつになって



平成19年1月28日(日)14:00より、第4回さいたま市PTA協議会コーラス祭が大宮ソニックシティ小ホールにて開催されました。「ビリーブ」の全体合唱で始まり、始終和やかな雰囲気にも包まれながら、全27曲の発表が行われました。

発表する団体だけでなく会場全体の心がひとつになったような素晴らしいコーラス祭となりました。

参加校

芝川小、大宮別所小、大宮八幡中、日進北小、植竹小、大砂土小、片柳中コーラス同好会、上小小、大谷小、第二東中、海老沼小、七里小・七里中・東宮下小・大谷中・蓮沼小合同

【特別演奏】

P's (さいたま市内の学校のPTA会長、役員、教職員で構成されている結成8年目のPTAバンド)

【講評】

佐藤猛(さいたま市立谷田小学校 校長)
羽田悦夫(さいたま市立大宮東小学校 校長)



● 会場は歌声につつまれて...

自慢の広報紙をコンクールへ

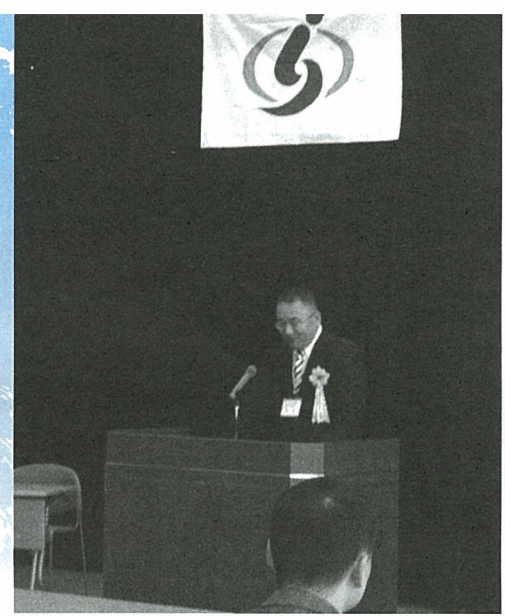
募集

今年度もPTA広報紙コンクールを開催します。
3月28日(水)までに、1年分の広報紙を市P協へ送って下さい。詳しくは、すでに送付されています「開催要項」をご覧ください。



なスタートを! 「研究会・研究大会」が開催

協会の協議会へと成長しました。そして本年、晴れて第1回研究大会を開催することができました。
「ユニケーション」を掲げさせて頂きました。
。今回の研究大会では、どのような手法があるのかなど、実際に体験を通じて学んでいただき、
って開催いたしました。



「開会のあいさつをする向江会長」

平成19年1月23日(火)に第1回さいたま市PTA協議会研究大会が、主催さいたま市PTA協議会、後援さいたま市教育委員会、会場をシーノ大宮(センタープラザ)を拠点として開催され、市内各校PTA関係者並びに教職員の参加を頂きました。開会にあたり、大会委員長でもある会長向江正晃より挨拶があり、本研究大会の趣旨並びに研究主題にいたる経過説明があり、晴れやかにスタートいたしました。内容としては、今回は6つの分科会にわけて、セミナーを午前と午後で開催し、その締めくくりとして報告会を実施しました。多くの参加者から、大変有意義なセミナーであったとの声を頂きました。

●第1回さいたま市PTA協議会研究大会 【開催要項】

1. 趣旨
人と人との関係が希薄になりつつある現代社会において、どのようにして人と人をつないでいくかは、とても重要な課題となっています。この研究大会では、単に知識を学ぶだけでなく、よいコミュニケーションを形成していくためのいくつかの手法を体験していただきます。
具体的なコミュニケーションの手法を体験することにより、参加者として各PTAの活動が活性化され、豊かな人間関係に基づいた社会に結びつくことを目的とします。この研究大会に参加し、参加者全員が新しい自分に気付き、充実した家庭生活やPTA活動を行うきっかけとしましょう。
2. 研究主題：「様々なコミュニケーションの手法を体験を通して学ぶ」
3. 主催：さいたま市PTA協議会
4. 後援：さいたま市教育委員会
5. 開催期日：平成19年1月23日(火)
6. 会場：シーノ大宮(センタープラザ)
7. 参加者：各校PTA代表者1名、教職員12名程度
8. 分科会

【第1分科会】講師/池上 奈生美氏 「インプロ(即興演劇)入門」 「感じるままに動いてみよう!」

インプロを体験または見たことのある参加者は誰もいないというのを確認して「インプロ入門」は始まりました。なぜ、今、教育現場でインプロ(即興演劇)が使われているか。それは協力し合う、受け入れあう、助け合うことが前提となり、話を作っていく上で、他のメンバーと協力して平等

にアイデアを出していくことを体験できるからです。人との関わりの中でどういうことが大事なのかを学ぶことができます。人と人のコミュニケーションを高めることにより発想力の醸成を促すなどのメリットのため、この手法は企業にも導入されつつあるということです。
実際にゲーム形式でいろいろな体験をしましたが、ゲームをする上で注意することが3つありました。
①直感を大切に：頭で計算すると素直な気持ちに気がつきにくくなる
②協力しあう：他者を受け入れる
③楽しむ：楽しむこと、笑うことは受身に
なりがちであるが、本来は自発的なこと。インプロは今に集中し、今を受け入れ、今を作り出す力を引き出すと言えます。



「ミーティング グリーティング!」

【第2分科会】講師/青木 将幸氏 「ファシリテーション入門」 「活性化したPTAをつくるには」

ファシリテーションという言葉を知っていたのはその中で僅かに1名という状態で講演が始まりました。
1. ウニの話
「ウニとはどんなものか言葉で教えてあげるとしたら、何と説明しますか?」これが講師の青木さんの第一声でした。「思いの説明では、何だかよくわかりませんが、言葉で説明するより、その人実際に食べてもらうのが一番です。今日はこのウニをファシリテーションに置き換えて、味わって(体験して)理解して頂きます。」という前置きで、第2分科会はスタートし

ました。
2. 立ち位置を聞く話
同じ会場に同じ顔をして参加している人たちも心身の状態は色々。もしPTA活動を、心も体も今ハッピーな人のペースで進めたら、ブルーな人はついて行けません。今日はハッピーでいるけれど、明日は違うこともあるわけで、人それぞれに心身の状態があるということです。
3. 共通点を探す
2人1組になってお互いの共通点を3つ探しました。初めて会った者同士なので、ぎこちない会話です。子どもの数、趣味、PTAでの役割等共通点が見つかるうちに会話もスムーズになって行き笑顔が出るようになりしました。会議もPTAの活動も話し合いから始まります。お互いがぎこちないままでは何も進みません。共通点を探すのはそのきっかけの1つです。
4. こんなクラスだといいなあ
同様に2人1組で意見を出し合い、ポイントに紙に列記していきました。「元気がある」「親子・教師間で信頼関係がある」「子供同士助け合える」等数多く出ました。ここで「親同士が仲良し」という意見に対して「1部が仲良くなることで仲間はずれになる人が出る」との異論が出ました。ここで青木さんは「仲良しになることで阻害される人が出ない」との条件をつけることで全員の合意を得ました。異論は異論として受け入れ、全員が合意できる案を出すことが重要なのです。更に出た意見に対しては批判をしない、責任を求めない、この2点を守らないと意見は出ません。
5. 口(くち)に二画
次に口(くち)に二画を足して出来る漢字を作ってくださいという問題が出されました。まずは個人戦で最大12個まで回答され、3人1組では17個まで記録を伸ばしました。最後に全員で考えたところ何と24個の漢字を作ることが出来ました。諺にも3人寄れば文殊の知恵と言うように皆で知恵を出し合えば大きな結果が得られることの実践でした。
6. こまっつあん
こんな困った人がいました、との実例に対して討論となりました。
「実例1」：委員を1回もやらず卒業年になって委員になったが忙しくて出来ないという人がいた。
「ルールに対しては厳格に適応すべき」
「委員・役員にしても出席しなかったら意味が無い」
「うやむやにすると追従する人が出る」
等様々な意見が出ましたが結論が出ず議論

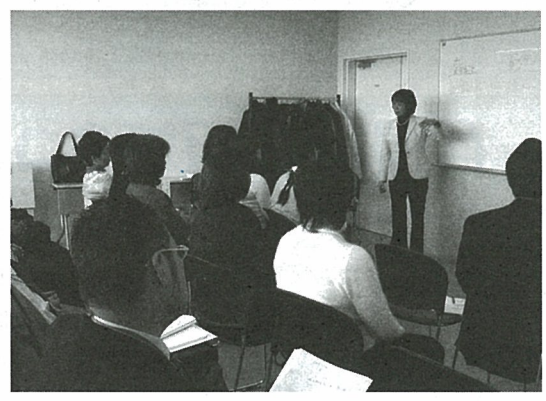
だけが行われました。そこで青木さんが時計を見ながら対処例を出しました。
その1：その困った人の出来る仕事の選択肢を出し選ばせる。
その2：責任者が説得する
その3：状況に対してのリスクとリスク回避の方法を話し合う、または決めておく一筋縄ではないかな問題なので正解が出たとは思いませんが、正解を出す方向は見えてきたように思えました。
7. 会議の進展は、共有↓拡散↓混乱↓収束
基本情報を共有・理解する(共有)、短時間で多くの意見を出す(拡散)、意見を分類し列挙して自分の考えをまとめる時間(混乱)、合意項目を確認し、何が決まり何が決まらなかったのかを周知する(収束)。気がつけばこれらを例題・問題と言う形でやってきたことを最後になって理解しました。
こうして、ファシリテーションとは何ぞやなどという言葉による説明は一切無いまま、参加者全員がファシリテーションを学ながら第2分科会は和やかに終了しました。



「いいアイデアがたくさん出ました」

【第3分科会】講師/菅原 裕子氏 「親と子のコーチング入門」 「子どもと接するためのヒント」

子供のコーチングは、子供とのコミュニケーションを能力を伸ばすものに変えていくという事が基本的な考え方です。
まず、子供の年齢と親の役割についてです。子供が生まれたときの親の役割は「保護者」で、子供を保護するのが親の役割です。保護するヘルプ(子供を助ける事)です。それがなければ、子供は生きては



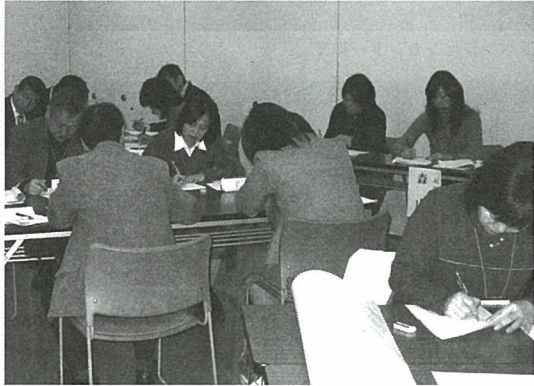
「親の役割は? 一言も聞きませせん」

いけません。この時期に、十分なヘルプを受けた子供は非常に感情豊かな、穏やかな子供に育っていきます。
そして子供は、成長していきます。保護者の役割が減っていく、どんな役割になるかといいますが、親(サポート)にならなくては行けないのです。つまり、できなかつたので「助け」ましたが、できるようになったので「見守り」ます。このように、親の役割は子供の成長と共に変わらなっていくのです。
役割が保護者から「親」へと変わっていくときに、私達は子供に何をしたらいいのかという、
・マネージャー(人生の管理の手伝い)
・スポンサー(教育を受けさせて社会へ出す)
・コーチ
になることです。この中でコーチの役割は、子供の持っている才能を最大限に高めてやる事です。では、どう接したらいいのか、何を伝えたらいいのかと言うと
・愛する事を教える
愛する事を学んだ人は、自分を、他人を、世の中を愛する事ができます。すると、世の中が子供達を愛してくれます。
・責任を教える
自分に不都合が生じたら原因を変えようと努力する力が生きる力となるからです。そして、子供の生活は、子供に任せる事で自身の自信が深まります。
・人の役に立つ喜びを教える
親の役に立つ用をやってもらう事です。そして、子供に用をやってもらったときに褒めてはいけません。褒めて子供をコントロールしてしまうと、褒めない動かない子、自信の持てない子が育つ危険性がある

活動の充実に向けて新たな

「第1回さいたま市PTA協議会」

平成13年4月に、さいたま市PTA協議会は発足し、平成17年には旧岩槻市PTA連合会と合併して10区のPTA連合会となりました。このことはひとえに会員の皆様のご理解とご協力によるものと感謝しております。今回の研究大会のテーマとして「子どもは人と人とのつながりの中で、人として成長していきます。そして、家庭での教育は、重要な役割を担っています。家庭・学校・地域でその体験を活かし、また、各学校や区P連のPTA活動の活性化につなげていっていただければと願っています。」



「課題シートに一生懸命書き込んでます」

米国の心理学者が、人のコミュニケーションを分析したところ、3種類に分類できることが解明されました。その具体的分類は、
①「受け身型コミュニケーション」
②「攻撃型コミュニケーション」
③「アサーティブ型コミュニケーション」の3つです。
第4分科会では、相手も自分も大切にすることを「アサーティブ型コミュニケーション」を講義と演習とを織り交ぜながら楽しく学び、アサーティブとは何か？まずその理念と構造を理解し、その具体的な技法であるアイメッセージや4段階法なども、体験しながら学習しました。

これからの講義や演習を通して、アサーティブの本質が、コミュニケーションの技術のみならず、主体的で自律的な生き方と密接に結びついているということがわかりました。
そして、参加したみなさんが、このアサーティブというものがどんなものなのか体感できたと思います。体感を通じて、学校での人間関係をはじめ、家庭や職場での人間関係の向上に役立つようになります。そして、自己決定・自己責任の生き方が求められる今、様々な人々と円滑な人間関係が望まれる今、アサーティブは、その有効なツールの一つであると実感した内容でした。

「第4分科会」講師/金屋 光彦氏
アサーティブ・トレーニング入門
「さわやかな自己表現を学ぶ」
米国の心理学者が、人のコミュニケーションを分析したところ、3種類に分類できることが解明されました。その具体的分類は、
①「受け身型コミュニケーション」
②「攻撃型コミュニケーション」
③「アサーティブ型コミュニケーション」の3つです。
第4分科会では、相手も自分も大切にすることを「アサーティブ型コミュニケーション」を講義と演習とを織り交ぜながら楽しく学び、アサーティブとは何か？まずその理念と構造を理解し、その具体的な技法であるアイメッセージや4段階法なども、体験しながら学習しました。

「第5分科会」講師/吉田 昌義氏
これからの特別支援教育入門
「教育的特別支援が必要な子どもたちとのよい関係作りを学ぶ」
今日の教育動向の中で、「特殊教育」が「特別支援教育」へと変わりつつあります。これからの対象となる障害は、視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・身体虚弱・言語障害・情緒障害でしたが、今後は、これに加えて通常の学級に在籍し6・3%を占める高機能自閉症やLD、ADHD等も対象とすることとなったということです。
また、学校教育法の改正により、平成19年4月から、盲・聾・養護学校は特別支援学校へ、特殊学級は、特別支援学級となり障害のある児童生徒一人一人について、個別の教育支援計画を作成し、障害のある子どもを生産にわたって支援することとなりました。各地の教育委員会では、具体的な施策を立て、動いています。また、各小・中学校に、特別支援教育校内委員会が設けられ、特別支援コーディネーターが指名され、相談や研修等が行われています。
また、各障害（視覚障害・聴覚障害・肢体不自由など）の児童生徒と接するときの基本的な配慮などの説明がありました。特に、自閉症については、DVDを視聴し、行動特異性対応などへの理解を深めました。また、最近話題となっている学級内での落ちこぼれ学習することが難しいために配慮を必要とするLD（学習障害）について、保護者や学校における気付きの難しさについてなどの説明がありました。

「第6分科会」講師/吉田 理映子氏
広報の技術入門
「人に考えを伝えるには」
広報とは家庭と学校をつなぐラブレターとされています。広報紙をみんなに読んでもらうためにはどのように作成したら良いのかをみんなで考えながら指導していただきました。
まず、広告と広報の違いと二位一体のルールの説明を聞き、広報で大事なことを話そうかがわかりました。上下関係が生まれにくい、お互いの意見が出しやすいたことが大切で、良い広報とは、親子、友達に「読んで」と話したくなるような、きつかけづくりに繋がることが重要ということでした。そして、身近なPTA広報紙では、作り手と読者が同じ立場であるので、テーマを絞るときは出来るだけ身近なものにもっていくということでした。

「第6分科会」講師/吉田 理映子氏
広報の技術入門
「人に考えを伝えるには」
また、広報紙をつくる大事な鉄則、5つのDonのお話があり、
1. どんな人から
2. どんな人へ
3. どんな点を載せたら良いか
4. どんな手段で
5. どんな時に
この5つのDonを常に考え、制作していく事が大切であることをうかがいました。そして、広報紙を作るにあたって考えるポイントの説明があり、私たちPTAの広報紙づくりに役立つ内容満載の部会でありました。

「第6分科会」講師/吉田 理映子氏
広報の技術入門
「人に考えを伝えるには」
また、広報紙をつくる大事な鉄則、5つのDonのお話があり、
1. どんな人から
2. どんな人へ
3. どんな点を載せたら良いか
4. どんな手段で
5. どんな時に
この5つのDonを常に考え、制作していく事が大切であることをうかがいました。そして、広報紙を作るにあたって考えるポイントの説明があり、私たちPTAの広報紙づくりに役立つ内容満載の部会でありました。

「第6分科会」講師/吉田 理映子氏
広報の技術入門
「人に考えを伝えるには」
また、広報紙をつくる大事な鉄則、5つのDonのお話があり、
1. どんな人から
2. どんな人へ
3. どんな点を載せたら良いか
4. どんな手段で
5. どんな時に
この5つのDonを常に考え、制作していく事が大切であることをうかがいました。そして、広報紙を作るにあたって考えるポイントの説明があり、私たちPTAの広報紙づくりに役立つ内容満載の部会でありました。

「第6分科会」講師/吉田 理映子氏
広報の技術入門
「人に考えを伝えるには」
また、広報紙をつくる大事な鉄則、5つのDonのお話があり、
1. どんな人から
2. どんな人へ
3. どんな点を載せたら良いか
4. どんな手段で
5. どんな時に
この5つのDonを常に考え、制作していく事が大切であることをうかがいました。そして、広報紙を作るにあたって考えるポイントの説明があり、私たちPTAの広報紙づくりに役立つ内容満載の部会でありました。

「第6分科会」講師/吉田 理映子氏
広報の技術入門
「人に考えを伝えるには」
また、広報紙をつくる大事な鉄則、5つのDonのお話があり、
1. どんな人から
2. どんな人へ
3. どんな点を載せたら良いか
4. どんな手段で
5. どんな時に
この5つのDonを常に考え、制作していく事が大切であることをうかがいました。そして、広報紙を作るにあたって考えるポイントの説明があり、私たちPTAの広報紙づくりに役立つ内容満載の部会でありました。

「第6分科会」講師/吉田 理映子氏
広報の技術入門
「人に考えを伝えるには」
また、広報紙をつくる大事な鉄則、5つのDonのお話があり、
1. どんな人から
2. どんな人へ
3. どんな点を載せたら良いか
4. どんな手段で
5. どんな時に
この5つのDonを常に考え、制作していく事が大切であることをうかがいました。そして、広報紙を作るにあたって考えるポイントの説明があり、私たちPTAの広報紙づくりに役立つ内容満載の部会でありました。



「どういう人に広報紙を届けたいか考えてみよう」

また、広報紙をつくる大事な鉄則、5つのDonのお話があり、
1. どんな人から
2. どんな人へ
3. どんな点を載せたら良いか
4. どんな手段で
5. どんな時に
この5つのDonを常に考え、制作していく事が大切であることをうかがいました。そして、広報紙を作るにあたって考えるポイントの説明があり、私たちPTAの広報紙づくりに役立つ内容満載の部会でありました。

また、広報紙をつくる大事な鉄則、5つのDonのお話があり、
1. どんな人から
2. どんな人へ
3. どんな点を載せたら良いか
4. どんな手段で
5. どんな時に
この5つのDonを常に考え、制作していく事が大切であることをうかがいました。そして、広報紙を作るにあたって考えるポイントの説明があり、私たちPTAの広報紙づくりに役立つ内容満載の部会でありました。

また、広報紙をつくる大事な鉄則、5つのDonのお話があり、
1. どんな人から
2. どんな人へ
3. どんな点を載せたら良いか
4. どんな手段で
5. どんな時に
この5つのDonを常に考え、制作していく事が大切であることをうかがいました。そして、広報紙を作るにあたって考えるポイントの説明があり、私たちPTAの広報紙づくりに役立つ内容満載の部会でありました。



「各分科会報告者の皆さん」



「早朝より受付ご苦労様でした」



「開会式、真剣に聞き入る参加者の皆さん」

「愛する子どもたちの笑顔のために～eye・I～逢い～」
日本PTA全国研究大会みやざき大会

日本PTA全国研究大会みやざき大会



●ワールドコンベンションセンターにて

8月26日(土)27日(日)第54回日本PTA全国研究大会みやざき大会が開催され、さいたま市PTA協議会からは11名が参加し、大会1日目はPTA活動の重要性と役割・広報活動・地域連携・人権・国際理解・保健安全・教育改革など10の分科会に分かれ、実践発表や基調講演・意見交換を行なった。

2日目は全体会で、大会宣言・決議が採択され、予定されていた水谷修氏の記念講演が突然中止となり、暑い中集まった8000人の会員のため息が走った。しかし、文部科学省生涯学習部長の田中社一郎氏が急きょ壇上へ上がり講師を引き受けられ会場から惜しみない拍手がわき起こった。

PTA活動はかにかに語りあつて

平成18年10月5日(木)6日(金)の2日間、広島にて第62回指定都市PTA連絡協議会研究大会が開催され、大人や子どもの規範意識や自己統制力、社会性の育成を目指して学校、家庭、地域の連携をより深めるためのPTA活動は何かあるべきかを研究主題とし、4つの分科会で討議がなされた。

第一分科会では、「PTAの組織と運営」として、保険業法の改正による安全互助会の取り扱いや、市P、区P、単Pとのかかわりあいについて再確認の場となった。

第二分科会では「PTAと生涯学習活動」をテーマに子どもにとって親はどうあるべきか、親の役割として家庭教育しつけの見直しの必要

性について考え、父親の参画が不可欠との討議がなされた。

第三分科会では「PTAと地域社会」について、子どもたちをまもるためには、地域の協力を得ると同時に、まず出来ることから迅速に行動を起こす事の重要性を考えさせられた。

第四分科会の「PTAと広報活動」からは、広報委員のコミュニケーションから生まれる保護者、先生、地域の方々の「輪」を通し、PTA活動に参加できない会員の方も広報紙を見る、またはアンケートやコラムなどの紙面参加という考え方が提言された。また、今後、政令市間での広報紙の意見交換を定期的に行ってみてはなど、活発な提案も。



●意見交換が盛んな分科会

「育もう子どもの心に豊かな夢と希望を」
関東ブロック研究大会千葉県大会

10月13日(金)14日(土)第38回(社)日本PTA関東ブロック研究大会千葉県大会が開催された。さいたま市PTA協議会からは58名の参加。貸し切りバスと電車を利用して、それぞれ興味ある分科会に参加し意義のある発表や議論が展開された。

第4分科会/人権・共生

子どもの権利学習「川崎市子どもの権利に関する条例」を生かした参加型学習
川崎市立井田小学校教諭 阿部 雅子氏
心のバリアフリー「ひとにやさしいまちづくり」
千葉市立花園中学校PTA若山智子氏



●事例発表にも工夫が

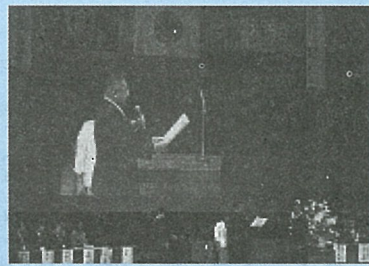
前者の発表では、知る権利がどう制度化されているかという川崎市の一歩進んだ教育について考えさせられた。特に、後者

の発表において、「心のバリアフリー」が生活空間の質を高めていくという指摘は新鮮だった。

第7分科会/地域連携

地域・学校の連携を推進する「PTAのOBのお節介り」を目標とする
青少年育成さいたま市民会議 与野東地区会長 徳永茂氏

地域で育つ子どもたち PTAにできること
「互いに顔の見える地域社会を目指して」
千葉市立こてはし台中学校PTA 副会長 中沢実智子氏



●日Pより千葉市P協へ感謝状

青少年育成と野東地区では、中学校区と青少年育成の地区別が一致している利点をフルに活用し、中学校区が一体となって活動している、学校・PTA・自治会長・民

生児童委員が一堂に会して地区懇談会を開催し、基調講演・分科会での討議・全大会での結果発表まで実施しているのは驚きであった。二つの発表を聴いて、中学生の地域行事・ボランティアへの参加には仕掛けが必要であること、群れを集団にするにはコーディネーターが必要で、与野東中学校ではPTAのOB、こてはし台中学校ではPTAがその役割を担っていることを知った。また、「親子で○○」「中学生と小学生が一緒に○○」がキーワードであるとも感じ

た。

14日の全大会では、式典前のアトラクションで、千葉市内の中学2年生、高木竜馬君のすばらしいピアノ演奏があり、シヨパンとリストの音楽に聞き入った。そして、大会式典に続いてジャーナリスト櫻井よしこ氏を講師に迎え「教育が拓く未来」という題で記念講演があり、持ち前の説得力ある語り口で、子どもの教育の土台として食事がいかに大事であるか、いくつか事例を引きながら強調された。また、これからは、日本の先人たちの生きてきた歴史を見直すことがさらに重要になると説かれた。

最後に、来年度の開催地の栃木県P連の方々によるデモンストレーションがあり、子ども達について、教育について、様々な考えさせられた2日間が終わった。

日本PTA全国協議会
年次表彰式

おめでとうございます

平成18年11月17日(金)にホテルニューオータニにて日本PTA全国協議会年次表彰式が行なわれました。

文部科学大臣賞団体の部に高砂小学校PTAと大宮東中学校PTAが、日本PTA全国協議会会長賞団体の部に中島小学校PTAと常盤北小学校PTAが、日本PTA全国協議会会長賞個人賞に新田敦子さん、青山恭之



●表彰状を手に喜びもひと潮

さん、二重作和久さん、齋島雅勝さんが表彰されました。おめでとうございます。今後のますますのご活躍を御期待いたします。



●ユーモアたっぷりに語る
島田洋七氏

最終日の全体会では、地元広島市出身のタレント、島田洋七氏を講師に向かえ、「元氣、勇気、やる気」と題し、記念講演が行われとても元氣づけられるユーモアたっぷりの内容であった。また、来年度開催予定のわがさいたま市PTA協議会によるPRを最後に、盛況のうちに幕を閉じた。



●広島大会交流会の様子

さいたま市内の国立・市立小中高・養護学校へ通っている児童・生徒の皆さんの事故を24時間幅広く補償します！

さいたま市PTA協議会
「児童・生徒ワイド補償制度」加入受付中！

(団体傷害総合保険)

毎年、多くの方々に新規ご加入いただき、現在では13,600名の生徒の皆様にご加入いただいております

補償制度の特長

1. 一般加入と比べて44%割引のお得な保険料
2. 学校管理下・管理外を問わず「24時間補償」
3. 傷害補償は、入院・通院とも「1日目から補償」
4. さらに入院は「1000日まで補償」
5. 加入児童・生徒の扶養者に万一のことがあった場合の「育英費用補償」
6. 加入児童・生徒がストーカー犯罪やひき逃げ事故に遭われた場合の「被害事故補償」

※本広告は制度の概要のみを記載したものです。ご契約に際してはパンフレットをご参照ください。

いつでも
ご加入いただけます！
(年間保険料3,000円から)

当制度のお問い合わせ先・パンフレット請求先

さいたま市PTA協議会「児童・生徒ワイド補償制度」係
(事務局)さいたま市大宮区大門町3-1 大宮区役所東棟1F
取扱代理店:(有)池田保険事務所
〒336-0932 さいたま市緑区中尾1424
【お問い合わせ先】 TEL:048(875)9133 FAX:048(810)1502

引受保険会社(株)損害保険ジャパン(幹事会社)

埼玉支店さいたま総合支社販売推進グループ
さいたま市大宮区桜木4-82-1 TEL 048(648)6063
AIU保険会社 東京海上日動火災保険(株)

さいたま市PTA協議会ホームページ <http://www.saitama-city-pta.jp>